

平成19年度モデル地域における主な取組等について

〔千葉県富津市〕

(1) 地域が有する観光地域プロデューサーの需要

地元商工会・観光協会のメンバーで構成される金谷活性化委員会を中心として地場産業・文化歴史を活用した観光地づくりを進める中で、地域と一緒に課題解決に取り組みつつ、観光地づくりの推進組織を創り上げることでできる人材が必要

(2) 観光地域プロデューサーの氏名(年代・職業)

島田 昌幸 氏(20代・会社代表取締役)

(3) 主な取組内容

- ① 地域資源が石ということと歴史的に芸術文化につながりが深いということに着目し、北海道から若手芸術家を誘致し、石のモニュメントを作成。それを、地元住民の協力の下、旧国道に配置し、「石の刻道」という観光資源を創出
- ② 若手書道家と空間造形を専門的に実施する若手を呼び込み、書道と近代的な内装を施した観光案内所「石の舎」をオープンし、まちな人たちが集まるプラットフォームを創出
- ③ 観光案内所を中心に「石の舎」ブランドといった地場産品を活用した商品開発



平成20年3月号

千葉県富津市

観光地域プロデューサー

島田 昌幸

房州石を活用した石釜プロジェクト完成！！

金谷に房州石を活用した石がまの試作品ができました☆



房州石釜で焼いたパンやピザは最高です！！この石がまの作成者はテレビ番組『情熱大陸』でも紹介された左官職人の第一人者、久住氏の協力によって完成！！地元の職人さんにも参加していただいて見事な石釜ができました！！

皆さん観に来てくださいね

房州石の刻道(こくどう)がさあいこうプロジェクトで創られたモニュメントがまちのいたるところに設置されました☆
みなさん、新しい観光資源の発見を楽しんでくださいね☆



今月の観光P島田の、つぶやき

平成19年度も早くも終わり、次年度に向けて何をしようかと考えているのと同時に、この地域の暖かさを感じている今日この頃です。当初は、地域の人と理解しあうことが出来なかったり、意図が伝わらなかったりと大変でしたが、最大の観光資源が‘人’ということに改めて感じました。次年度は、石と芸術のまちということで、日本でも指折りのまちと言われるぐらいのプロジェクトを実施したいと思います。すでに皆さんを驚かすことが出来るプロジェクトだと思っています。世界と地域を観光という側面から結んでみようと思っています。地域のいいところを整理してパッケージ化すると観光客の人たちにもより、地域の醍醐味を味わっていただけたらと思います。

観光客や他地域の方から多くの応援のメッセージを頂いたり、実際に金谷に来ていただいて毎回、勇気を頂いております。今後もよろしくお願いいたします。

〔東京都台東区〕

(1) 地域が有する観光地域プロデューサーの需要

近年、国内及び海外からの旅行者誘致を拡大させてきた結果、各事業を適切に企画運営するのが困難な状況となっていること、より一層の誘客のために水準の高い受入れ体制が必要であることから、新たな観光戦略を企画できる専門能力を有する人材が必要

(2) 観光地域プロデューサーの氏名（年代・職業）

鈴木 英雄 氏（60代・旅行会社勤務を経て大学講師）

(3) 主な取組内容

- ① 旅行エージェントへのセールス等を展開し、台東区への観光誘致促進を図るため、旅行業の経験を活かし、国外向けシティーセールス用パンフレットの制作
- ② 国際観光都市・台東区を目指し、国内外観光客誘致を図るため、企業主催のキャンペーンとタイアップし、福岡市の駅構内においてシティーセールスによるプロモーション事業を行うとともに、福岡市内の観光エージェントを訪問し、PR活動を実施
- ③ 観光事業の推進や適切な観光政策、振興計画づくりを行うため、台東区内における観光客の動向、ニーズ及び回遊性等を調査



平成20年3月号



東京都台東区

観光地域プロデューサー

鈴木 英雄

台東区3月の主なイベント

3月3日：江戸流し雛

3月18日：浅草観音示現会・金竜の舞

3月中旬から：隅田公園桜祭り、上野桜祭り

3月23日、東京地方に例年より1週早い桜の開花宣言が出ました。台東区役所もまさに年度末、何かと気ぜわしく落ち着かないのです。桜は3月30日には満開で雨にぬれた夜桜が美しかったです。

今月のにぎわい誘客課が関与した誘客事業は次の3件でした。全て大成功でした。

実施日	事業名	事業主幹	台東区として
3月20日	第3回 外国人対象、日本文化体験観光 (写真1)	にぎわい誘客課	JICA を通じて、日本で火山分野を研究中の外国人8名に日本の文化(ちょうちん製作、茶道体験、浅草芸者見学など)を実施しました。ちょうちんと茶道体験は、地元上野の有志の方に助けをいただき、浅草芸者見学は浅草見番のご協力をいただき大成功でした。
3月26日	韓国人旅行者接遇研修会 (写真2)	にぎわい誘客課	JNTO に韓国人観光客接遇関連講師と、韓国語の講師の派遣を依頼し、台東区民が日常業務や販売で困っている問題点の解決の勉強会です。
3月17日	日韓大学生フィールドトリップ (写真3)	韓国観光公社	日本と韓国の学生交流プログラムです。韓国で観光学を専攻している大学生約30名が、日本へのフィールドトリップで成田到着後そのまま、浅草に外国人の接遇状況の学習に立ち寄り約3時間の浅草寺周辺を見学しました

写真1



写真2



写真3



平成20年度、観光地域プロデューサーとしての主な活動予定は、

1. 平成19年度実施事業の費用対効果の測定、スクラップ・アンド・ビルドを実施予定
2. Webカメラを雷門、アメ横に設置し観光資源をインターネットでライブ配信予定
3. 官学共同による観光客マーケット調査(費用対効果など細部を見直し、精度を高める)
4. アジア地区における外客誘致のためのシティーセールス
(東京都観光財団の外客誘致活動に参画など)
5. 現在のホームページを少しずつ改定してゆきます。

大筋で台東区は、「浅草文化観光センター改築」(平成23年度予定)、新東京タワーの完成(平成23年度予定)を見据えて様々な事業展開を予定しています。尚、並行して上野西洋美術館の世界遺産登録運動、下町コメディ映画祭 in 台東、東京オリンピック招致活動援助、なども予定されています。平成20年度もますます楽しくなる台東区を期待してください。

締め切りに間に合ったので3月28日の台東区内の桜をご紹介します。

隅田公園



浅草寺



上野恩賜公園



〔山梨県富士河口湖町〕

(1) 地域が有する観光地域プロデューサーの需要

現時点では観光客数は堅調に増加しているが、住民主導の観光まちづくりの取組が弱い。今後も継続的に集客を維持するためには、住民主導の観光まちづくりが不可欠であるとの認識の下、推進体制を整備するとともに、当該取組の中核を担う人材が必要。

(2) 観光地域プロデューサーの氏名（年代・職業）

花岡 利幸 氏（60代・NPO法人会長（大学名誉教授））

(3) 主な取組内容

- ① 観光まちづくりに住民を巻き込んでいくために、町民向け「観光地域プロデューサーだより」を発行し、全戸に配布。観光まちづくりの必要性及び考え方の普及を図るとともに、観光まちづくり組織の中心メンバーとして活躍する人材を公募
- ② 観光まちづくり組織設立のために、前述の公募に応じた者で構成する「観光まちづくり推進会議」を設置し、勉強会や先進地研修を実施
- ③ 「観光まちづくりカレッジ」（人材養成教室）を準備するために、町民による観光まちづくり推進会議の活動の確認、チェック、アドバイスを与える専門機関「観光まちづくり専門家委員会」の設置、テイクオフシンポジウム及び先進地研修を実施



平成20年3月号

山梨県富士河口湖町
観光地域プロデューサー
花岡 利幸

(1) 活動の記録

3月に行った活動は以下の5点です。

- 1) 観光まちづくり推進会議を精力的に行い、4月に開催の「観光まちづくりカレッジ(人材養成教室)」について話し合いました。
- 2) 国土交通省主催の「第3回観光関係人材育成のための産学官連携検討会議」に出席しました。
- 3) 富士河口湖町観光立町推進基本計画(骨子)の策定会議に参加しました。計画のテーマは『富士山と湖が風景(自然、文化)として溶け込んだ、魅力ある観光まちづくり』です。
- 4) 観光まちづくりカレッジのテイクオフシンポジウムを「富士河口湖町の観光まちづくりを考える一観

光はまちづくりの総仕上げ」と題して行いました。この準備作業として観光地域プロデューサーだより3号の発行、チラシの発行、シンポ時に配布するカレッジ入学募集要項の作成などの作業が目白押しで続きました。

- 5) 観光まちづくり組織の立ち上げの先進地、北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉「NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構」を3月26、27日に訪ね視察研修しました。

(2) テイクオフシンポジウム

3月23日(日)に行ったテイクオフシンポジウムでは、午後1時30分から午後4時45分まで、下記に示す内容の基調講演、基調報告、パネルディスカッションが3時間15分にわたり行われました。「観光地域プロデューサー」モデル事業検討委員会から大西先生、水嶋課長、廻先生にご出席を賜りました。日曜日の開催でしたが、約200名の町民他の皆様が参加され最後までほとんど退席者のないほど熱心に耳を傾け、意見も述べて頂きました。終了後多くの方々から有意義で、よかったとの言葉をいただきました。ありがとうございました。観光まちづくりカレッジの門出を飾るシンポジウムになったと思います。

これをスタートとして来年度は本格的な観光まちづくり活動が観光まちづくりカレッジを通じて動き出します。

記

基調講演1 住民主体の観光まちづくり (東京大学教授) 大西 隆

基調講演2 観光でまちづくり (観光開発プロデューサー) 原 重一

基調報告1 観光地域プロデューサーモデル事業について
(国土交通省総合政策局観光資源課長) 水嶋 智

基調報告2 富士河口湖町観光立町推進基本計画について (横浜商科大学教授) 羽田耕治

パネルディスカッション

テーマ 富士河口湖町の観光まちづくり

コーディネータ

(富士河口湖町観光地域プロデューサー) 花岡利幸

パネラー 原 重一

水嶋 智

羽田耕治

(山梨大学教授) 北村真一

(淑徳大学教授) 廻 洋子



(3) 観光まちづくり先進地阿寒湖温泉研修(まとめ)

- 1) 阿寒湖温泉は市・町・区の「区」に当たる観光地区です。末端行政である釧路市の構成要員である阿寒町、その下の地区を構成する阿寒湖温泉という地域のランク付けです。これは徒歩生活中心の基礎生活圈です。ここを計画対象とする「観光まちづくり」です。
- 2) 阿寒湖温泉では、2002年に、在来組織である「観光協会」と「まちづくり協議会(前身:阿寒湖温泉連絡町内会)」が協力して主体となり、以降、当地まちづくりのバイブルとなる「阿寒湖温泉再生プラン 2010」を作られました。これを動かすために協会と協議会を再編成した新生「NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構」を2005年に作られました。その理事会(理事長、副理事長5人、専務理事)が中心になって、バイブルを実行するまち(阿寒湖温泉)の経営を行っていられます。現在、第三期計画「再生プラン 2010」を実施中とのことです。既に、当初計画の7割を実施しているそうです。
- 3) NPO はバイブルに書かれた課題を達成するために、一方において国や北海道や市を動かして課題に関する事業化を工夫し、もう一方においてそれへの住民参加(まもり倶楽部/女性まちづくり集団)のサポートを得て、その事業を住民生活の豊かさの実現につなげる活動をしていました。



(4) 本年度のまとめ

観光まちづくりカレッジ開校の準備を行ってきました。ほぼ予定を完了しました。昨年10月から2ヶ月ほどは、具体的課題である「観光まちづくり人材養成教室開催」に絞り込むまでに要した時間が多く、目に見えた成果が上がりませんでした。しかし、年末に近づくにつれ少しずつ成果が出てきました。年が明けてから急ピッチで作業が進みました。町長が変わるという時期にも遭遇しましたが、観光課をはじめ、関係者に大変お世話とご協力をいただき、何とか本年度当初の計画を全うすることができました。ここに記してお礼を申し上げます。

〔静岡県伊豆の国市〕

(1) 地域が有する観光地域プロデューサーの需要

伊豆長岡町の温泉、菟山町の歴史資源、大仁町の農業・商工業等、それぞれの地域特色を活かした観光振興策を展開しているが、宿泊客や観光交流人口の増加にはつながっていない状況にある。このような状況に歯止めをかけるため、型にはまらない新鮮なアイデアにより事業を展開し旧態依然とした古い意識や過去の栄華から脱却できずにいる現状を打開できる人材が必要

(2) 観光地域プロデューサーの氏名（年代・職業）

木村 美穂 氏（20代・デザイナー）

(3) 主な取組内容

- ① 新たな観光ターゲット（首都圏に住む20～30歳代及び50歳周辺）のニーズに対応していくためのアンケート調査及びモニター調査を実施し、伊豆の国市の観光の実態を把握
- ② 市内の宿泊施設、飲食店、観光施設等の観光関係者を対象にワークショップを開催
- ③ 新たなイメージを発信していくための地域資源調査、キーとなるビジュアルを撮影し、印刷物の制作や広報宣伝に向け素材収集を実施



平成20年3月号



伊豆の国市

観光地域プロデューサー

木村 美穂

第2回ワークショップ

1、2月に行った宿泊モニターのアンケート結果報告として、ワークショップを開きました。伊豆の国市の弱点を知り、改善していくための調査でしたが、思っていた以上に厳しい指摘が多く出ました。記述式を多くし、後日一部のモニターの方にインタビューをしたことで、状況等がわかりやすく、発表では危機感を伝えることができたように思えます。





旅館などの宿泊施設はもちろん、市内観光施設や景観に対することなど、幅広く考えるきっかけとなったので、今後、ソフト面とハード面に分け、各グループごとなどに勉強会を開いていくことも考えていきたいです。

キービジュアル撮影「春」

3月21日から、キービジュアル撮影「春」を行い、桜並木と富士山を中心に、伊豆の国市で外せない温泉などを撮っていきました。晴天が続き、富士山がいつも顔を出し最高でしたが、今回の一番の収穫は、今まで撮れずにいた温泉を選別して撮れたことにあります。



伊豆の国として、温泉を大きく発信していくときに、公共のお風呂ではどうしても情緒に欠けていました。いくつかの旅館を選んだことにより、幅広い雰囲気を出せそうでよかったです。雪が減多に降らない伊豆では、やはり春からの季節が華やかなので、これからのスケジュールをうまく立てて、「行ってみたい伊豆の国」となる様、素材を検討していくつもりです。

半年を過ぎて・・・

伊豆の国へ来るようになって、半年が過ぎました。想像以上に、今までの体制を変えていくことは大変だと感じる毎日です。ただ、宿泊モニター調査などで、女将さんの中で、このままではいけないという動きが出てきたことも事実です。来年度も引き続き、プラスの発信とともに、マイナス部分の改善を、ほんの少しずつでも、進めていきたいです。

今月の体験 1



龍源院のしだれ桜
圧巻です。
横にあった伸びをしている石像が
可愛い。

今月の体験 2



伊豆にもやっと春がきました。
ムスカリ、菜の花、スイセン、
モクレン、チューリップ、桜・・・
この時季は、雪をかぶった富士山
を綺麗に見ることができます。

今月の発信



「茶摘みに来にやあー？」
茶摘みに来ませんか？という意。
大江戸線車内広告の
4月バージョン。
4月末からの茶摘み体験で
衣装も着られます。

〔富山県立山町〕

(1) 地域が有する観光地域プロデューサーの需要

主な観光資源である立山黒部アルペンルートは、長野県大町市と立山町にまたがるとともに、運輸部門や宿泊部門において複数の事業者がかかわっており、関係者の連携による観光客の増加を図るため、関係者間の利害調整をすることができる人材が必要。

(2) 観光地域プロデューサーの氏名（年代・職業）

井野 和英 氏（60代・旅行会社、大学講師を歴任）

(3) 主な取組内容

滞在型観光とリピーター客を増加、外国人旅行客の増加及び個人旅行への対応強化を図るために、以下の取組等を実施

- ① 山岳パンフレット・ポスターの作成
- ② エリア・ツーリズム・エージェンシー設立に向けての先進地調査を実施
- ③ 観光物産展、観光説明会、トラベルビジネスフェアにおけるプロモーション活動等による情報発信



平成20年3月号

来 富 キ パ
ら 山 ト ノ
れ に キ ラ
ト ト マ



富山県立山町
観光地域プロデューサー
井野 和英

立山に赴任してから6か月が経過した。3月の報告と併せ、6か月間のまとめを報告したい。

小学生にカづけられる

町内の小学校5年生が自由研究で「立山の観光」についてまとめた。担任の先生から役場に掲示してほしいとの依頼があり、玄関横に掲示した。



県内のいくつかの学校から5年生の代表が集まり自由研究の課題を調整する中で、立山町から参加した子は「観光」についてまとめることを決め、クラスの皆で研究をまとめたものである。小学生が地元の観光について真剣に考えてくれていると思うと非常に力づけられる。今回はそれに加え大きなヒントがあった。

右側の写真は生徒さんが作った特産品のマップで、その中には隣接する市町の特産品がいくつか含まれているが、私には、子供たちが立山という観光地を広域的に見ていると思えてならない。観光圏整備法が制定され、広域での観光振興の視点がさらに必要とされる中での問題提起をもらった気がする。

中部トラベルビジネスフェア

中部トラベルビジネスフェアが名古屋で開催され、中国の旅行会社との商談会に参加した。1社15分で5社に対し立山観光を宣伝したが、外国人旅行誘致のプレゼンテーションのポイントについて2~3点述べてみたい。

第一は、ロケーションやアクセスの説明に時間がかかり、予定したことの半分も伝えられなかった。アクセスを分かりやすく説明する資料などの作成が必要だと痛感した。



第二は、4泊とか5泊程度の日程を前提としたコースの中で自分の観光地を売り込むかということになるので、モデル日程を把握しておかないと先方のニーズに応えられない。

第三は、立山の観光のポイントの1つは「雪の大谷」であるが、中国でも南部の広州とか香港は雪に関心が高いが、北部の北京とか大連とかはあまり高いとはいえない。また、富山の米はおいしいことで定評があるが、日本米に対する関心の高さには本当に驚いた。

次回の外国人旅行誘致の説明には同じことを繰り返さないようにしたい。

立山のタベ

3博物館が中心となり、映像で知られざる立山の魅力を紹介するイベントが東京で行われた。観光協会のパンフレットを入場者に配布したこともあり、お客様の反応を伺う良い機会だと思い参加した。夕方から2時間のプログラムに会場が多くの人で埋まり、途中で席を立つ人もなく、改めて立山の魅力のすごさを見た思いである。



半年終わって

赴任してから半年が経過した。4月からアルペンルートが開通する今年は多くの観光客を迎えることができるだろうか。少しは貢献できただろうか、気になっている。この半年間は主として県内や町内のネットワーク作りや観光資源についての把握が中心であった。

残された1年半で観光情報発信のインフラ整備にかかわるような事業を推進したいと考えている。4月からスタートダッシュで臨みたい。